

CIR活動ページ



12月



No.109

紅葉シーズンが終わると、朝晩がすっかり冷え込むようになり、本格的な冬が到来しました。本州の最南端に位置する鹿児島は「南国」というイメージが強いですが、冬はかなり寒いです。中国の北方人（中国では、秦嶺山脈と淮河を結ぶ線を境に、「南北」が分かれる）である私は寒さに強いはずだと思われがちですが、実は南方人に比べると北方人は意外と寒さに弱いです。なぜかという、中国では北方地域にだけ「集中暖房」というヒーティングシステムがあり、冬には室内が常に20度以上を保っているため、非常に過ごしやすいのです。一方、「集中暖房」がない南方は悲惨です。冬になると部屋は外より寒いと南方人の友達から聞きました。南方の方々、今年も寒さに負けずにお過ごしください！

それでは早速、11月に行った国際交流イベントをご紹介します！



作成：中国国際交流員・李迪

11月3・4日 霧島ふるさと祭、今年も大盛況

毎年恒例、秋にある霧島ふるさと祭は今年で9回目となりました。霧島市の特産品や農産物、グルメなどの展示や販売が行われるほか、ダンスパフォーマンスやバンド演奏なども会場を盛り上げました。

天候にも恵まれ、今年も霧島市国際交流協会ブースは大賑わいでした！子供に大人気の「カルチャー体験コーナー」では、一日目は韓国の「タクチ折り紙」とアメリカの「ターキー描き」、二日目は中国の「世界一難しい漢字に挑戦」とアメリカの「パンプキン作り」が行われました。気軽に作れて遊べる「タクチ（メンコ）」や、感謝の気持ちを込めて描いた「ターキー（七面鳥）」、総画数57画の激ムズ漢字や可愛いハロウィンパンプキンは、いずれも好評で、二日間の総来場者数は去年の倍近く、200人を越えました！

来年の「カルチャー体験コーナー」はどんなものになるでしょうか？楽しみにしています。



11月12日 中国茶文化講座が行われました



ウーロン茶をはじめ、ジャスミン茶やプーアル茶など、日本人には馴染みの深い中国茶ですが、その豊富な種類と健康効能が世界でも注目されています。日本の茶道を学ぶ時に日中お茶文化の違いに気付き、今回の講座を企画するきっかけとなりました。実は、中国茶の種類さえ完璧に言えなかった私はこの講座を機に、中国茶について猛勉強し、今中国茶にはまっています。

当日、茶葉のいい香りの中で講座が始まり、お茶の歴史から、中国茶の分類や産地、製造方法や銘柄、茶道具や入れ方まで、色々紹介させていただきました。待ちに待った試飲タイムに、中国から買ってきた六種類の銘茶を飲み、中国茶に合う中華菓子を食べた参加者の方々からは「美味しい！」との感想をいただきました。この一言は私にとって最高の褒め言葉です。今回の講座を通じて、少しでも多くの方々が中国茶に興味を持ってくれたら嬉しいです！